



Title: 政治を考える資料としての政党紙

❖ 地図と鉄道を楽しむ

もう30年近くになるのかな、「本の雑誌」という雑誌を買い続けています。書評と多彩なコラムが満載ですが、最近の楽しみは今尾恵介の「地図の秘密」というコラム。地図や鉄道を専門とするエッセイストで著書多数、市立図書館には11冊所蔵があります。

本の雑誌11月号の同コラムのタイトルは「駅の乗車人員ランキングを眺める」。JR東日本が毎年発表している自社の駅別の1日あたり乗車人数の統計をネタにしたものでした。ネットで2015年度版を検索してみると、1位の新宿駅76万人から、最下位の岩手県・区界（くざかい）駅の1人まで、957駅が並んでいます。

気になるのは当然地元の駅です。結果は、大館駅1029人（614位）、鷹巣駅648人（695位）、東大館駅191人（851位）、十和田南駅183人（856位）、早口駅115人（891位）といったところ。県内で最も多いのは秋田駅の10933人で268位です。地方に行くほどクルマ社会で、鉄道利用が少ないのは仕方のないところでしょう。

東大館駅と十和田南の間には6つの駅があります。早口駅が載っていて扇田駅がないはずはないと改めて探したのですが、ありません。不思議に思って説明をよく読むと、「1日平均の乗車人員を把握できる駅を掲載」したとありました。無人駅はランクに入らないのですね。大館―好摩間の花輪線は27駅あるのに、大半は対象外というわけです。

ところで、新宿駅は1日あたり百万人単位の利用があつて世界一だとテレビのニュースか何かで見たか聞いたかしたぞ、という方もいると思います。あれは1日平均の乗降者数、つまり降車人数も含んでいます。加えてJRだけでなく新宿駅に乗り入れている全路線、すなわち私鉄の京王、小田急、それに地下鉄各線も合算したものです。その数342万人。秋田県の人口の3倍以上が毎日出入りしているわけで、そりゃたまに行くと目が回るわけだ。それはそうと区界駅って、1人の利用者のために駅員がいるってこと？だとしたら、これはこれですごいですね。

市立図書館にある今尾恵介の著書は11冊。ジャンルは、歴史、社会科学、自然科学、産業に分かれます。興味のある方は、まずは図書館内にある検索機やご家庭のパソコンから、市立図書館のOPACを開いて検索してみてください。

❖ 政党機関紙を考える

中央図書館に利用者の方から、どうして特定の政党の機関紙（新聞）だけ置いているのか、という問合せがありました。

一紙のみ政党機関紙が置いてあることについての確かな経緯は、調べましたがはっきりしませんでした。購入ではなく寄贈されているため、文書類の記録がないのです。ただ、新聞としての扱いは購入している一般紙と異なり、持ち帰り自由のコーナーに当日だけ置いています。

それはともかく、この機会に政党機関紙について図書館としての方針を改めて検討しました。

図書館団体である日本図書館協会では、「公立図書館の任務と目標」という指針を策定しています。その中に市区町村立図書館の任務として次のような項目があります。

第2章 市区町村立図書館

一 3 図書館資料

42 図書館は、全国紙、地方紙、政党機関紙のほか、それぞれの地域の状況に応じて専門紙を備える。

また、その3つ前の項目は

39 住民に適切な判断材料を提供するため、政治的、社会的に対立する意見のある問題については、それぞれの立場の資料を収集するよう努める。（後略）

となっています。

これまで市立図書館では、全国紙、地方紙および専門紙の充実は意識するものの、政党機関紙は考慮の外でした。これを改め、政党機関紙の利用者への提供を前向きに行います。ただ予算のしぼりは厳然としてあるため、主要政党に寄贈を呼びかけて提供を受けたものを利用に供することとします。これは秋田県立図書館に倣ったものです。ちなみに県内では他に、能代市と由利本荘市で政党系新聞を置いています。県外でも多数の例があります。

12月には中央図書館で、政党系新聞を新聞架に掛けて市民の利用に供する予定です。我が国の選挙権年齢が18歳に引き下げられた今、青少年の政治を見る眼を養うという点でも意義のあることだと考えますがいかがでしょうか。なお、今回の契機となった利用者の方には紙上を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

（陽）